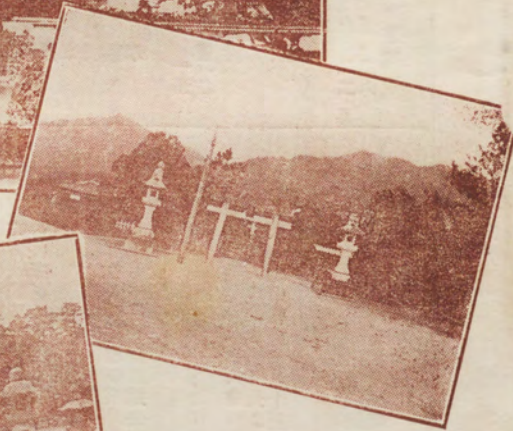


美日書館

# 報月萩

號八十三第



號月五年六和昭

行發町萩縣口山



昭和六年五月十三日印刷納本

昭和五年五月六日第三種郵便物認可  
行(毎月一回十五日發行)

第三十八號

目次

時事提唱	至自
庶政	至自
學事	至自
產業	至自
財政經濟	至自
地租法の改正に就て	至自
營業收益税法改正に就て	至自
縣稅營業	至自

時事提唱

萩町の納稅成績を向上することに付ては町理事者は申すに及ばず縣當局及稅務署に於ても尠からず焦慮せられてゐるのみならず所管區長役場としても毎納期多大の努力を拂ひつゝ來りて居るのである滯納者の中には赤貧洗ふが如き者も少くないけれども其の大部分は、長くも帝國憲法第二十一條……日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス……の制文を疎んじ期限に至るも納稅を爲さぬと言ふが如き所謂怠慢者を以て充されてゐるのである是等怠慢者の言分として税金なるものは借りた金を返すのとは違ひ吾々の財寶を奪ひ取らるゝのであるから町役場から一二度位催促に來てから拂ふので十分だと言ふのである實に驚くべき言辭と言はねばならぬ是等の怠慢者に在りては國法の根本である帝國憲法の條章をも知らず又自分達が國家及地方團體の保護に依り今日の安寧と自由とを保ち居ることに對する奉公の義務であることをも忘れたるよりして如斯結果を招來したものであるかと思へば眞に悲むべきの至りである又納稅者中には國稅縣稅は納むるが町稅は少し待つて呉れと言ふ者も時に依り無いとも言へないが假に町稅に付て一例を擧ぐれば昭和六年度の特別稅戶數割一戸平均額は金拾七圓八拾參錢であるが此の一戸平均額を納稅する者の中に小學校に入學者の兒童ありとすれば此の兒童一人の爲に要する昭和六年度の教育經常費は金貳拾圓八拾五錢四厘強となつてゐることに鑑み既に小學校兒童の教育費のみでも少からぬ利益を享けてゐることが明かに判るのであるから是等の言分けの如きは慎まれないものと思ふ要するに今日の町費なるものは教育費と言ひ軍事費と言ひ勸業費、衛生費、土木費、戶籍費、徵稅費と言ひ其の大部分は國家より委任せられたる行政を掌る爲に要する

軍	至自
通	至自
土木交通	至自
衛生	至自
人事	至自
社會事象	至自
雜事	至自
稅雜種稅課目課額中改正	至自
家屋稅納期限變更	至自
土原第二區納稅貯金組合總會	至自
納稅成績	至自
自轉車鑑札を無効となしたる者	至自
現役兵慰問	至自
傷疾軍人總會	至自
萩町招魂祭	至自
幹部候補生任官	至自
在郷將校同相當官の轉役	至自
教育召集	至自
勤務演習召集	至自
四月中秋郵便局行事	至自
萩郵便局昭和六年四月分事務取扱狀	至自
川島道路落成式	至自
官祭招魂社地の一部を道路區域に編入	至自
町村道改修	至自
四月中秋傳染病患者の狀況	至自
死亡者病類別	至自
結核豫防	至自
春の沙千狩は素晴らしい健康の泉	至自
疫病はもう怖くない	至自
適宜な調理法で營養を攝れ	至自
萩町の人口動態	至自
四月中秋出生届出の者	至自
四月中秋死亡届出の者	至自
四月中秋寄留及退去届出の者	至自
四月中秋入寄留及復歸届出の者	至自
受刑者	至自
山口縣社會事業大會の宣言決議	至自
宇田郷村大火慰問	至自
宇田郷村火災に就き同村長よりの禮狀	至自
婦人の服装改善に就て	至自
失火	至自
桃山報德會三十周年記念大會	至自
公人及私人	至自
心の鏡	至自
祖先崇拝に就て	至自
賀川豊彦氏萩の史蹟を訪れて	至自
名古屋の乾海苔が米國映畫女優の瘦せ藥	至自
萩町日誌	至自
昨年の讀者の聲	至自

費用であるからして之を滞納するときは國稅徵收法の例に依り滞納處分をして之を取建てねばならぬことゝなつてゐる即ち國稅とか縣稅町稅とか言ふのは單に租稅を收入すべき行政廳の區分に過ぎないのであつて其の間稅金の性質にも稅金の價値にも何等の變りは無いのである以上の事柄をよく諒得して各稅とも均しく完納する様にして貰いたいのである萩町は明治維新中興の策源地であるといふ自慢をして居るけれども國稅縣稅町稅等租稅の納稅成績は縣下を通し最劣等の地位に陥つてゐる計りでなく町役場としては是等の滞納者の多きが爲毎年度金四千五百圓以上の冗費を支拂はねばならぬことゝなり何とも言譯の出來ないものと思はれる依りて今後は一層納稅者の自覺奮起を促がし其の成績を向上せしめたい爲一面に於ては區長役場の區域毎に納稅貯金の組合を設けることゝし他の一面に於ては滞納處分を強行し以て積年の陋弊を除去したいものと思ふから茲に豫め苦言を呈し置く次第である

萩町は毎年度二百八十日以上堀内病院を開いて居り傳染病患者の治療費のみにても年額金八千圓以上を要するのである而して其の傳染病の大部分は腸チブス、赤痢であつて其の數は年と共に増加の傾向があることに留意せねばならぬ願ふに萩町の中心點を爲す市街地は沖積土壤より成り従つて水質最も悪しきが爲如此消化器傳染病の根絶を期し得ないのであるから保健衛生上からしても一日も早く水道を完成し眞の都市として耻ぢない施設を爲す必要がある以上は別問題として是等の消化器傳染病は絶対に生水を使用せず煮沸水に依ることゝせば容易に之を防除することが出來るけれども之を困難とする者に在りては各症狀に對する豫防液の注射を勵行するの外ないのである町内には現に腸チブス患者を發生して居ることであるから五月中旬頃より各方面に亘り此の豫防注射を施行する筈である所が今日迄の例に徴するときは既に豫防注射の準備をし

てゐるにも拘らず之をも回避せむとする者の尠くないの痛く遺憾として居るのである叙上の傳染病からして遂には一身一家を亡ぼし率ては隣佑にまで甚しき迷惑を懸ける様のこと其の例も乏しくないのであるから今回は各戸各員とも残らず此の注射を行ひ何とかして悲をべき是等の傳染病を驅逐したいからして是非御共助を願ひ置く次第である。

### 庶般行政

#### ◎宮廷錄事

- ◎皇族御參拜並朝見 邦英王殿下臣籍降下に付去月三十一日午前十時三十分 賢所 皇靈殿 神殿拜禮同十一時朝見を濟ませられたり。
- ◎行幸 天皇陛下は四月六日午後二時御出門大宮御所へ行幸あらせられたり。
- ◎行幸 天皇陛下は四月八日午前十時四十分御出門霞關離宮へ行幸同十一時五分還幸あらせられたり
- ◎暹羅國皇帝皇后兩陛下御參内並御會食 暹羅國皇帝皇后兩陛下は四月八日午前九時五十分御參内

天皇陛下には雅仁親王同妃兩殿下を隨へさせられ御車寄階上に御出迎鳳凰の間に御誘引同間に御待受の皇后陛下と共に御會見訖て隨員並に在邦同國公使夫人は 天皇 皇后兩陛下に謁見仰付けられ又同日午後六時五十分再び御參内 天皇陛下には前記同様御出迎豐明殿に於て御會食 皇后陛下は御雅仁親王同妃、故依仁親王妃、鳩彦王同妃各殿下を召させられ隨員並に在本邦同國公使同夫人其の他二十三名へ御陪食仰付けられたり

◎皇太后宮行啓 皇太后陛下は四月十日午前十時十五分大宮御所御出門同十時三十分原宿驛御發車同十一時四十五分東淺川驛御著車多摩陵へ御參拜午後一時五十分陵所御出門一時五十五分東淺川驛御發車同三時五分原宿驛御著車同三時二十分還御

あらせられたり。

◎親任式 四月十四日午後四時四十分親任式を行はせられ男爵若槻禮次郎を内閣總理大臣に、陸軍大將南次郎を陸軍大臣に、櫻内幸雄を商工大臣に、原脩次郎を拓務大臣に就も任せられたり

◎皇族御參拜並朝見 紀久子女王殿下正三位侯爵鍋島直映嗣子從五位鍋島直泰へ御歸家相成るへきに付四月十六日午前十時十五分 實所 皇靈殿 神慶拜禮同十一時參内朝見の儀同十一時四十分 皇太后に朝見の儀を濟ませられたり。

◎觀櫻會御模様 四月二十日新宿御苑に於て觀櫻會御催に付皇族を始め内外の諸員參苑 天皇陛下臨御内閣總理大臣以下及各國大使公使同夫人等へ賜謁訖で各員一同へ茶菓を賜はりたり

◎御禮電 宣仁親王同妃兩殿下米國に於て厚遇を享けさせられたるに付四月十八日 天皇陛下より同國大統領閣下へ御禮電御發送あらせられたり  
◎天長節祭 四月二十九日天長節祭の儀を行はせられたり

◎叙任及辭令

山口刑務所長典獄 七戸 大助  
補岐阜刑務所長 佐賀刑務所長典獄補 里 誠一

補山口刑務所長山口刑務所文官並普通懲戒委員長を命ず

下關區裁判所判事兼山口 吉田 正之  
地方裁判所兼山口區裁判所判事

濱田區裁判所判事兼松江 加藤 成正  
地方裁判所兼山口地方裁判所判事

山口縣農林主事に補す 金田 爾郎  
(以上萩町關係者)

從五位勳五等 荒地 清介  
叙正五位 從六位勳五等 大谷 雄介

電氣試驗所技師 田中 貢  
陸叙高等官三等

飛行第八聯隊附陸軍航空兵少佐 黒瀬 禎祿  
補飛行第八聯隊副官

◎陸軍歩兵學校召集佐官甲種學生及乙種學生修學終了者中萩町出身者にして成績優等に依り銀時計を下賜せられたる者左の如し

甲種學生 陸軍歩兵大尉 半井 顯雄  
(以上萩町出身者)

◎四月中發令の主要法規

◎國の法規

◆四月一日付を以て左の法律命令を公布せらる

◎大正十五年三月二十七日公布法律第十一號營業收益稅法中改正の件

◎大正十五年三月二十七日公布法律第二十四號地方稅に關する件中改正の件

◎明治四十一年三月三十一日公布法律第三十七號地方稅制限に關する件中改正の件

◎法律第五十二號を以て自動車交通事業法の件

◎明治三十三年三月七日公布法律第二十九號土地收用法中改正の件

◎勅令第四十七號を以て地租法施行規則の件

◎勅令第四十八號を以て營業收益稅法施行規則中改正の件

◎大正十五年勅令第三百三十九號大正十五年法律第二十四號地方稅に關する法律施行に關する件中改正の件

◎明治三十二年勅令第三百七十四號砂防法第十一條の地租其の他の公課減免に關する件中改正の件

◎内務大藏省令を以て昭和六年法律第五十一號及同年法律第五十號施行規則の件

◎大藏省令第六號を以て地租法施行細則の件

◎法律第五十四號を以て勞働者災害扶助法の件

◎法律第五十五號を以て勞働者災害扶助責任保險法の件

◎法律第五十七號を以て入營者職業保障法の件

◎明治四十年法律第十一號癩豫防法中改正の件

◎法律第五十九號を以て寄生虫病豫防法の件

◎法律第六十號を以て刑事補償法の件

◆四月二十四日陸軍省令第八號を以て陸軍補充令施行規則中改正の件公布

●縣の法規

- ◎四月七日山口縣令第十七號を以て縣營荒地復舊事業施行規則を公布
- ◎四月二十一日山口縣令第二十號を以て大正九年四月山口縣令第三十號師範學校規則中改正の件公布
- ◎四月二十四日山口縣令第二十一號を以て大正十三年十月山口縣令第七十三號山口縣兒童就學獎勵費金管理規則中改正の件公布
- ◎四月二十八日山口縣令第二十二號を以て大正十三年十月山口縣令第七十八號兒童就學獎勵金交付規程中改正の件公布

●萩町告示の主なるもの

- ◎町村道路線變更の件
- ◎自轉車取締規則に關する件

- ◎昭和四年度萩町各種會計歳入歳出決算の件
- ◎昭和四年萩町一部會計歳入歳出決算の件
- ◎萩町水防規程中改正の件

●殉難烈士例祭

四月二日午前十一時より東光寺に於て元治元年殉難したる益田右衛門介以下十八烈士の例祭を營まれたり當日の參列者は同遺族の外林町長代理河野書記其の他町内有志縁故者等十餘名にして午後一時莊嚴裡に終了せり

●天長節奉祝々賀會開催

四月二十九日午前十一時より町公會堂に於て萩町主催の天長節奉祝々賀會を舉行、會する者四百九十餘名、開會の挨拶、國歌合唱、東方遙拜、町長の式辭に次ぎ開宴一同 聖上陛下の萬歲を三唱し正午散會したり。

學 事

●商業學校職員異動

萩商業學校教諭心得を命す  
四月二十五日付 山口縣 作間 忠男

●小學校教員異動

白水尋常高等小學校訓導 山中ウメ子  
朝鮮全羅北道に出自を命す  
四月二日付 山口縣  
休職越ケ濱小學校訓導 長谷 武光  
願に依り本職を免す  
四月二十三日付 山口縣

●實業補習學校職員異動

山縣 正一

山田實業補習學校助教諭に任す

四月十五日付

山口縣

村上 俊夫

椿實業補習學校助教諭に任す

四月二十三日

山口縣

●青年訓練所職員異動

囑託を解く 椿青年訓練所主事 堀田 斷藏

椿青年訓練所主事を囑託す 伊藤 金熊

囑託を解く 山田青年訓練所指導員 池田 彦三

山田青年訓練所指導員を囑託す 長嶺 文造

囑託を解く 明倫青年訓練所指導員 伊藤 光雄

明倫青年訓練所指導員を囑託す 山本 賢夫

椿青年訓練所指導員を囑託す  
松本 二郎

以上三月三十一日付 山口 縣

椿東青年訓練所指導員 木藤 梅吉

囑託を解く 居田 省吾

椿東青年訓練所指導員を囑託す  
以上四月二十三日付 山口 縣

●圖書館職員異動

椿圖書館書記に任す  
栗山 亥駒  
四月二十三日 山口 縣

●萩商業學校在學生徒數

四月八日現在萩商業學校在學生徒數左の如し  
第一學年 第二學年 第三學年 第四學年 第五學年 合 計  
一〇七 九一 八七 八四 七一 四四〇  
休學 二

●昭和六年度生徒兒童一人當萩町教育經常費額

萩町小學校教育經常費總額は金拾壹萬千五百拾圓にして之を本年四月八日現在兒童總數五千三百四十七

●町内各小學校在學兒童數

四月八日現在萩町内各小學校在學兒童數左の如し  
◆明倫小學校

男	第一學年	一七九	第二學年	一九〇	第三學年	一九〇	第四學年	一九一	第五學年	一八三	第六學年	一七四	高 第一學年等	九	第二學年	三	計	一、二六〇
女	第一學年	一七九	第二學年	一八〇	第三學年	一七五	第四學年	一五九	第五學年	一五二	第六學年	一八〇	高 第一學年等	一〇六	第二學年	六	計	一、三三四
計		三五五		三五五		三五五		三五五		三五五		三五五		二〇五		一四一		二、四八四

◆椿東小學校

男	第一學年	八七	第二學年	八七	第三學年	八七	第四學年	八七	第五學年	八七	第六學年	八七	高 第一學年等	五	第二學年	四	計	六〇八
女	第一學年	八七	第二學年	八七	第三學年	八七	第四學年	八七	第五學年	八七	第六學年	八七	高 第一學年等	四	第二學年	三	計	五七〇
計		一七四		一七四		一七四		一七四		一七四		一七四		九		七		一、一五〇

◆越ヶ濱小學校

男	第一學年	四〇	第二學年	三七	第三學年	三五	第四學年	三五	第五學年	三五	第六學年	三五	高 第一學年等	三	第二學年	二	計	二七九
女	第一學年	四〇	第二學年	三七	第三學年	三五	第四學年	三五	第五學年	三五	第六學年	三五	高 第一學年等	二	第二學年	一	計	二五五
計		八〇		七四		七〇		七〇		七〇		七〇		五		三		五三四

◆椿西小學校

男	第一學年	三五	第二學年	四〇	第三學年	三五	第四學年	三五	第五學年	三五	第六學年	三五	高 第一學年等	二	第二學年	一	計	二二七
女	第一學年	三五	第二學年	四〇	第三學年	三五	第四學年	三五	第五學年	三五	第六學年	三五	高 第一學年等	一	第二學年	一	計	二二七
計		七〇		八〇		七〇		七〇		七〇		七〇		三		二		四五四

計	女	三
	男	七
	計	一〇
	第一學年	三
	第二學年	七
	第三學年	三
	第四學年	三
	第五學年	五
	第六學年	二
	第一學年等	九
	第二學年	二
	計	一四

計	女	四
	男	四
	計	八
	第一學年	四
	第二學年	四
	第三學年	四
	第四學年	五
	第五學年	四
	第六學年	四
	第一學年等	三
	第二學年	三
	計	三九

計	女	九
	男	三
	計	一二
	第一學年	六
	第二學年	三
	第三學年	五
	第四學年	三
	第五學年	七
	第六學年	八
	第一學年等	五
	第二學年	八
	計	四〇

計	女	三
	男	六
	計	九
	第一學年	三
	第二學年	三
	第三學年	三
	第四學年	三
	第五學年	三
	第六學年	三
	第一學年等	二
	第二學年	一
	計	一〇

◎青年訓練所教練指導員  
實習會

四月十九日午前九時より椿東青年訓練所に於て恒例に依る青年訓練所教練指導員實習會を開催青年訓練所顧問市川大佐以下各顧問萩中學校青木教官並各青年訓練所教練指導員共會合し教練指導に關する協議及實習を行ひたり

◎明倫實業補習學校入學式

四月八日午後一時より、本校講堂に於いて、本年度新入學兒童の入學式を舉行。兒童數男子百八十名、女子百七十七名、合計三百五十七名にして、之を六學級に編成し授業を行ふこととせり。

◎町内各青年訓練所へ教練用銃器備付

昭和五年度及同六年度經費を以て青年訓練所教練用銃器短劍其の他の附屬品を購入し左記の通各訓練所に配付することとし備付を了したり

- 明倫青年訓練所 七挺
- 椿東同 四挺
- 越ヶ濱同 四挺
- 椿同 四挺
- 山田同 四挺

◎明倫小學校入學式

四月十七日午後八時より、新入生徒六十名の入學式に併せて、本年度の始業式を舉行。當日校長以下職員全部集合、田中校長より一場の訓示と、今後の諸注意とを與へ、引續き授業を開始したり。

◎明倫青年訓練所入所式

四月十九日午後八時より、青年訓練所入所式を行ふ本年度新入生は三十名にして、之に第二年以上の生徒を合し全生徒數百二十七名に達せり。

●明倫小學校家庭訪問週間

小學校對保護者との連絡を緊密にし教育の徹底を期する目的の下に、四月二十四日より一週間、全校一齊に家庭訪問を實施し、學校教育の方針、擔任教員の意見及び特別留意事項等を説示し、一面父兄の家庭教育に對する意嚮、學校に對する希望及び兒童平素の行狀、環境の狀況等に就いて綿密なる調査を遂げ、教育將來の爲重要な參考資料を蒐集するを得たり

●明倫青年團評議員會

四月二十六日午後七時半より、明倫小學校内に於いて、明倫青年團評議員會を開催、左記各項を附議し午後十一時閉會せり  
一、本年度指導員委嘱の件  
二、青年訓練所、實業補習學校との連絡に關する件  
三、天長節に關する件  
四、入團式に關する件

- 五、支部月例會に關する件
- 六、支部團員名簿作成に關する件
- 七、三部々員名簿に關する件
- 八、招魂祭參拜に關する件
- 九、青年團手牒に關する件
- 一〇、青年團總會開催に關する件

●明倫小學校の結核豫防デー

四月二十七日は「結核豫防デー」に當れるに依り、各學級に於いて、結核豫防に關する講話並に衛生日課の指導に併せ之に對する試問を行ひ以て其の徹底を圖り、更に校舎内外の大掃除及び備品の日光消毒を施行せり

●明倫小學校來校視察者

四月中に於ける來校視察者の主なる者左の如し。  
浦和高等學校教授兼東京高等學校教授竹村昌次、山口縣師範學校教諭岩橋善雄、全古川清人、全長

●椿東校兒童役員任命式

四月十三日午前八時本年度兒童役員たる兒童長、副兒童長、監護長、各學級々長、副級長及學友分團長の任命式を舉行せり

●椿東校神社參拜

四月十五日は志都岐山神社、四月二十五日は椿八幡宮の各春祭に付全校總代として高等科兒童參拜又四月三十日の萩町招魂祭には尋六以上全部參拜せり

●椿東校結核豫防デー

四月二十七日結核豫防デーに關する講演に次ぎ全校一齊に衛生検査施行し且尋三以上の全兒童に就き結核豫防に關する考查を行ひたり

●椿東校映畫觀覽

四月二十七日午前十一時より尋三以上の兒童をして

野末男、大津郡明倫小學校訓導野村尙一、帝國人絹會社社長佐藤法潤外六名、京都帝國大學講師松本熊市、山口縣師範學校長島田民治、吉敷郡嘉川村役場兵事主任田村善助外青年團員十八名

●椿東小學校退職轉任訓導告別式

四月一日午前九時職員兒童出校して退職及轉任の一來訓導外三氏の告別式を舉行式後職員の送別茶話會を開催せり

●椿東校始業式並に入學式

四月八日午前八時より始業式を舉行。河村校長の訓告、本年度學級擔任教師の發表、唱歌金剛石合唱、次で本校に轉任し來りし山根訓導以下三氏を紹介し全十時より校庭に於て新入學第一兒童の入學式を舉行式後新入兒童は職員保護者の附添にて松陰神社に參拜せり



教育映畫「ロビンソン漂流記」小年戦線「スポーツ集」等を観覽せしむ

◎ 椿東校天長節拜賀式

四月二十九日午前九時より天長節拜賀式を舉行來賓多田町書記以下二十名、式後兒童に紅白祝餅を配與し解散せり

◎ 椿東女子青年團折紙講習會

四月四、五、六日の三日間椿東校に於て女子青年團主催小笠原流禮式師範長谷元助氏を講師として折物水引結の講習會を開催、毎日五十名以上の講習生あり盛會裡に終了したり

◎ 椿東青年團總會

四月二十一日午後七時三十分松陰神社記念館に於て總會を舉行し一夜講習を行、在郷軍人會長市川大佐臨席、昭和五年度會務報告、全六年度計劃協議、

新團員入團紹介、誓約、市川大佐、河村椿東校長の訓告、祝辭、團員の意見發表に引續き餘興として市川大佐の詩吟、各支部より出演の劍舞劇等あり同夜は各支部顧問と共に會場に一拍し翌曉五時解散せり

◎ 椿東青年訓練所入所式

四月十日午後八時半より椿東校に於て本年度の入所式を舉行す、椿東校職員並に福島幸輔氏外多數來賓の臨席あり因に本年度入所したる者十七名なり

◎ 椿東實業補習學校始業式

四月十七日午後八時より實業補習學校始業式を舉行す本年度の入學者は男子十六名、女子十八名計三十四名なり

◎ 白水小學校新入學兒童觀學祭參拜

尋一新入學兒童は、四月九日午前十一時校長、擔任

教員、保護者の附添にて産土神社觀學祭（玉江神社にて執行）に參拜。一同祭式に參列し神授品（修身教科書）を授與せられた

◎ 山田青年訓練所入所式

四月十日午後二時三十分より第一次生徒の入所式を舉行本年度の入所該當者二十七名（内十四名玉江浦特別班）全部入所した

◎ 白水小學校敬老會

四月十三日午後一時より第五回敬老會を開催した。高齢者三十九名中三十一名出席先づ校庭の櫻花を賞しつゝ會場に入り校長の挨拶、林町長、齋藤金祐氏の祝辭、兒童の遊戯等ありて後開宴、四時過閉會した

◎ 山田女子青年團後援會  
食パン製造講習會

帝國生活改善普及會を後援して四月十六日午後パン製造講習會を開催、參會者約四十名。相當の効果があつた。

◎ 若宮神社奉納劍道試合

四月二十二日若宮神社春季例祭に際し同日午後一時より木間青年團主催の劍道奉納試合を舉行。三隅、明木兩村青年團員參加山縣二段審判の下に午後七時盛會裡に閉會したり當日の成績左の如し

青年團一等河邊音松（三隅）二等西村正勝（木間）三等國重美徳（木間）四等東原新一（三隅）五等岡田惣一（木間）六等岡村要助（明木）番外壹等堀田道輔（三隅）二等河邊勝信（三隅）三等西村市若（木間）四等國重美徳（木間）五等原熊一（木間）六等來島實則（木間）

産 業

◎ 蠶業教師免許狀下付者

萩町石井光二に對し昭和六年四月十五日付を以て蠶業教師免許狀を下付せられたり

### ◎山口縣夏橙集團指導地設置

山口縣夏橙集團指導地を萩町中の台に設置し岡辰次郎氏所有の夏橙畑(成木畑約壹反歩、新植畑約壹反五畝歩)を中心指導園と爲し其の他の中の台夏橙園を以て一般の模範園と爲すべく是等の關係園主を網羅したる夏蜜柑改良組合なるものを組織し本縣技術者指導の下に之れが改良を計ること、なれり其の反別左の如し

中心指導園 二反五畝  
一般模範園 約七町歩

### ◎夏柑加工試験實施狀況

萩夏柑は從來殆んど生果の儘之を販出せる狀況なるも最近の調査に基き是等果實の一部を加工し其の販路を開拓して寒害豫防の具体化を計るを以て最も有

望なりと認め今回本町の事業として斯界の權威者京都帝國大學講師松本熊市氏を招聘し四月二十一日より二十八日迄八日間に涉り懇談並に實地に就き研究試験を行ひたる結果優良なる多種の製品を得當業者並に一般關係者の爲裨益する所甚大なるものありたり  
因に前記の研究に併せ凍害果の貯藏方法に付試験實施中のものあり此の成績の如何に依りては將來に期待すべきもの尠からざるべし

### ◎大屋農事組合集會

四月二十二日午後八時より大屋區公會堂に於て同區農事組合集會を開催。福田萩町農會副會長、森田同農會技手臨席山本農事組合長の挨拶に次ぎ森田技手は肥料の合理化に付講演せり後昭和五年稻作立毛品評會左記入賞者に對し町農會より賞品賞狀を授與し引續き協議事項を附議散會せり

稻作立毛品評會入賞者  
一等大谷福藏 二等伊藤槌千代、岩田吾一 三等

佐々木太一、石丸三千祐、柴田瀧藏 四等福山市熊、高本光一、伊藤喜代槌、大谷滿作、山根周藏 村岡惣衛門、楊井孫一 協議事項

◎昭和六年度稻作立毛品評會實施◎町農會主催多收穫品評會出品◎原種採種の試作者に對する助成金◎原種特種試作者をして試作管理日誌記入作製

### ◎孟宗畑の經營

萩町 岩 武 技 手  
一、孟宗筍栽培の適地

孟宗筍栽培上特に注意を要する點は何人よりも早く販出の出來ることであつて先づ以て溫暖なる場所を選定するのである次に人爲を以て成し得ることは肥料、敷草、土入等の勵行に依るものであるから茲に之が栽培を奨励する所以であります  
然らば適地とはどんな所が良いか  
1、位置最も日當りのよい東南向きの緩傾斜地で排水が良好であること特に西北の風を防ぐのが必要

條件です

2、土質地味の肥沃と否とには左程關係はないが最も適質なのは赤粘質土で此處に出來る筍は自然美味なるので都會では赤土と云ふことが頭に染み込んで居る下ノ關方面では黒土の筍は賣行きが悪いので商人が若し黒土のものを安く手に入れたときは一應その土を洗ひ落し赤粘土液に浸し販賣して居る状態であるから黒土よりも赤土を選ばねばなりません

### 二、既孟宗畑の改良

孟宗筍栽培に就て先づ新植方法を申上ぐるのが順序ですが是は新植の好時期に譲ることにして既成孟宗竹の改良に就て其の方法を述べます

1、親竹の本數

當地附近の孟宗竹林は凡て親竹が多い過ぎ其の上古き竹が何時迄も残してあります之を整理することが第一條件です親竹の本數は何程位が良いかと申しますと筍を目的とするものは本數を多くしてはなりません母竹が多いと次の様な害があります

- (1) 土地が日蔭となり温度が高まらざる爲收穫が遅くなる
- (2) 根が錯雜して營養不良となり發育遅れ收量も少し故に親竹の本數は一貫目三本位の細物を作るには反當り百本―百五十本位を適當とします然らば親竹は如何なるものから伐採すればよいかと申すと可成古きものより伐採し六年以下の親竹を二坪―三坪に一本の割合に残して置きます

2、心切り

- 筍採取本位の孟宗畑にありては筍が生長して最下の枝が竹皮を破り出で二の枝出でんとする際小竹は七枝中竹は九枝大竹は十二枝を残し尖を長柄の鎌にて一刀の下に切り落すのであります心切りの効果は凡そ次の如し
- (1) 心止めは肥料を節減す
- (2) 風強き際根鞭を傷けぬ故發育宜し
- (3) 日光がよく照り込む爲筍の發生を良好にして早し
- (4) 筍多くして小くなり販賣に好適故に筍専用畑にするには是非心切りを必要とす

3、手入

- 親竹の伐採を爲し筍の心切りを行ひたる畑には次の手入が必要とす
- (1) 除草 現在の孟宗竹林を見るに雜草、蕨等蔓延し足の踏み所もない様になつて居るが先づ是等の雜灌木をよく掘り起すことが肝要とす雜草等があると折角肥料を入れたものが無駄になり雜草の繁茂が益々盛んになるからです先進地の畑を見ますと草は一本も生へて居りません
- (2) 肥料 孟宗畑程肥料の効果が多きものはありませんで先進地厚狭郡王喜村では五十圓の肥料を施せば百五十圓の筍が採れ百圓の肥料を施せば三百圓の筍が採れると申して居る程肥料に重きを置いて居ります肥料を施すと收量が増し早く發生して肉が柔く色が白く品質のよいのが出來ます
- 肥料の施し方は筍を掘り取つたならば穴は其の儘にして置き可成早く大豆粕を一穴に二三合(大豆粕に水を注ぎ之れに過磷酸石灰をまぶしたるものなれば動物に食はれる慮がありません)

宛施します筍の掘り跡のみで不足のときは一坪約三ヶ所宛になる様掘つて施します筍の發生終了後なれば下肥を一杓宛施し埋めて置きます

4、敷草土入

以上の春肥が済むと非常に雜草が繁茂しますから夏中二回位除草し九月から十月下旬に掛けて一坪當三穴を標準に適宜に穴を掘り春同様出來得る丈け澤山肥料を入れます

肥料を施したならば其の上に一面に土の見わたる迄藁又は野草の類を二寸以上撒布し尙其の上に見わたる程度に土を入れます此の敷物は筍を促成する爲の防寒具となり土は筍の黒くなるのを防ぐ爲であつて以上の方法を毎年繰返して行きます

5、筍の品質

現在都會地方で好まれて居る筍は當地方で從來好まれて居るのとは全然反して居ります將來は都會地方に好まれる筍を作ること心掛けねばならぬので参考の爲品質に就て申述べると

(1) 太さ 筍の太さは前述の如く一貫に三本位のもの最適とし太くとも八百匁を超へてはならぬ

即ち太きものは高價となり小人數の家庭に適せず料理して如何にも堅き筍の様思はしめまます又形状は短きものを良しとし特に罐詰用は小供のコマ大のものを適品とします罐詰は絶対に横切りしたものは用ひません

- (2) 色、上等品は淡黄白色又は淡黄褐色で黒色のものは大市場では決して賣れない茲二三年すると黒物は上物の半額以下に下落すると思ひます
- (3) 肉質 軟き程上等である特に黒色のものは堅く又軟かくとも灰分が多いと云ふことになつて居るから品物が劣ります

以上の良品は現在の様に放置して置いては幾年経つても産出されません。要は經營者の心掛如何であり金も掛けず良い筍が出來る様になります。手入をすれば大變金が掛る様に思はれますが是れは實行せぬ人の言事である一度實行した人は肥料入を止めと云つても止めぬのを見ると其の利益が如何に多いかと云ふことが窺はれます當地附近には到る所廣大な孟宗竹藪を見受けますが文字の如く皆藪になつて居ります是を孟宗畑にすべく皆努力したならば當町に

於ける産物中一方の雄となるのは決して難事ではないと思ひます最後に一反歩當りの收支を示し筆を擱きます

5、孟宗畑收支概算

支出の部

- 一金五圓六拾錢 除草中(女六人一日六十錢、三、六〇〇)
- 一金六圓 耕人夫(男二人一日一圓、二、〇〇〇)
- 一金六圓 土人夫(男六人一日一圓六、〇〇〇)
- 一金拾圓 收穫人夫(延人員男十人一日二圓二〇、〇〇〇)
- 一金拾五圓五拾錢 肥料代
- 大豆粕五〇貫一、二、五〇
- 過磷酸石灰五貫一、〇〇〇 下肥二、〇〇〇に施用
- 一金七圓 藁、敷草代
- 一金五圓 器具預料公課其の他
- 計金四拾九圓拾錢

收入の部

- 一金百貳拾圓 箭代反當四〇〇貫平均參拾錢
- 一金五圓 間材竹販賣高
- 計金百貳拾五圓
- 收支差引殘金七拾五圓九拾錢

◎四月中萩町物價

本月中平均物價 前月に比し騰落

中米(白米)	一石	一六、五〇	落
裸麥(精白)	一石	一三、〇〇	
大豆	一石	一四、〇〇	落
白味噌	一貫	〇、八〇	落
清酒(中等品)	一石	一〇〇、〇〇	
白砂糖(洋)	百斤	一九、〇〇	
赤砂糖(洋)	百斤	一五、〇〇	落
鯉節(土佐)	一貫	一、〇〇	落
牛肉(中等品)	百斤	七五、〇〇	落
鶏卵(地卵)	百個	三、〇〇	
牛乳	一升	〇、七〇	落
晒木綿	一反	〇、五〇	
石炭	十貫	〇、六〇	
木炭(橙)	十貫	一、五〇	落
美濃紙	一縮	二四、〇〇	落
半紙	一縮	六、〇〇	落

◎昭和六年四月中萩港

輸出入貿易

輸出之部

品名	價格	噸量	仕向地
蜜柑	三三五圓	一一噸	關東州
竹詰	三六一	八	同
竹材	一八〇	一三	同
竹製材	二一〇	一七	同
木製材	二、九四五	一三四	同
繩索(藁製)	二〇〇	一五	同
木製品	一六	一	同
計	四、二四七	一八九	
一月以降累計	七、九六一	三七二	
輸入の部			
無し			
一月以降累計無し			

◎昭和六年四月中町立萩魚市場賣買取扱高

區分

本月份賣買取扱高

萩魚市場	六〇、六六一	四七〇
越ヶ濱出張所	一六、七四五	九二〇
玉江出張所	六、六三八	一〇〇
計	八四、〇四五	四九〇

◎四月中の氣象

氣溫平均	最高氣溫	最低氣溫	雨雪量
一四度六七	一七度三六	八度〇七	一六〇糎六

◎四月中風向觀測

北	北東	東	南東	南	南西	西	北西	靜穩	最多	方向
一	一	二	二〇	四	一	七	四	一	南東	

◎四月中天氣類別日數

種別	日數
快晴	七
晴	五
曇	一八
雪	一
霰	一
雹	一
霜	一
濃霧	一
雷電	一
地震	一
暴風	一
最高卅度以上	一
最低〇度以下	一

◎今月の園藝行事

野 菜  
 下種 甘藍 花柳菜 子持甘藍 枝豆 菜豆  
 定種 茄子 胡瓜 南瓜 西瓜 蕃茄 土當歸 薑  
 里芋等

追肥 何れの作物でも追肥の後れるのは最も不良である時に早熟野菜には此の影響が甚しい

其他 敷藁除草藥劑撒布は時期を失しないことが肝要である

收穫 促成果樹胡瓜 草莓の採收

摘果 及袋掛 桃梨は本月上旬より摘果及袋掛を行ふ

藥劑撒布 梨葡萄等に藥劑の撒布が肝要

誘引 葡萄の結果枝及發育枝も追々伸長して來るから蘭草を以て誘引し一方卷鬚を除去す

砧芽掻き 育成中の各種苗木の砧より生ずる芽を掻き苗の發育を促す

花 卉

日覆 氣温が高くなる日光は強くなるのでフクシヤ

クロシキニア、ベコニヤ、シクラメン等に日覆を爲す  
 春蒔草花の移植及定植 牡丹芍薬の施肥 水蓮の根分け 朝顔の下種

財政經濟

◎地租法の改正に就て

地租法は本年度より施行せらるゝに付其の改正の主要點を左に掲ぐ

一、賃貸價格主義の採用 従前の地租の課税標準たる地價を廢し賃貸價格を以て課税標準としたこと

は税制史上特筆すべき改革である

二、税率の改正。従前は地價を課税標準とし宅地は百分の二、五田、畑は百分の四、五其の他の土地は百分の五、五の割合で課税したのを今回之を改め賃貸價格を標準として各地目共に百分の三、八

(昭和六年分に限り百分の四)の割合で課税することになつた

月の畑、雑地租から初めて徴收せらるゝのである

七、賃貸價格の改訂。第一回の改訂は昭和十一年四月一日現在に依り之を調査し昭和十三年に於て課税標準額の改訂を行ふのである

八、地租の免税點。各納税義務者に付同一市町村内に於ける同一地目の賃貸價格の合計金額が一圓に満たざる時は地租を免除せらるゝのである

九、地積の改測。地目變換又は地類變換に因り課税標準を修正する場合に於て従前は測量を爲し地積を定むるを原則としたるも改正法に於ては必要ありと認むる場合に限り測量を爲すことに改められた

◎營業收益税法改正に就て

營業收益税の税率を左の通り改正せられた

法人百分の三、六を百分の三、四に

個人百分の二、八を左の通り改正

純益金額千圓以下なるとき 平年度百分の二、二 六年度百分の二、五

三、自作農免税點。自作農の免税點は從來地價貳百圓迄であつたが今回之を改め賃貸價格二百圓迄となつた(従前の地價二百圓は賃貸價格にすれば二百四十圓位に當る)

四、激増緩和 課税標準及び税率の改正に依る負擔の激増を緩和する爲新法に依る地租額が従前の地租額の三、八倍を越ゆる土地に付ては三、八倍を超過せぬ様賃貸價格を制限することとなつた

五、メートル法の採用。地積はメートル法を以て定めることになつた即ち宅地及鑛泉地は一平方メートル(十平方尺八九)を單位とし右以外の土地の地積は一アール(一畝〇步二五)を以て單位とすることとなつた

六、納期の變更。從來田租第一期が其の年の十二月十六日から翌年一月十五日限となつていたのを今回之を改め翌年一月一日から同月三十一日迄となつた尙昭和六年分に限り地租法施行の爲種々の事務的手續を要する關係上宅地第一期の七月を十一月に其の他第一期の九月を翌年一月に第二期の十一月を翌年三月に何れも延期された即ち本年十一

純益金額千圓の千圓以下(平年度百分の二、二、五、六、八)の金額を越(平年度百分の二、二、六、八)ゆる金額(六年度百分の二、二、八)

即ち個人に對しては六年度約一割平年約二割輕減の割合であつて法人の方は昭和七年度より個人の方は昭和六年度より適用することになつて居る

◎縣稅營業稅雜種稅課目

課額中改正

本年三月三十一日付を以て縣稅賦課規則中左の通改正本年度分より適用せらる

記

(括弧中は改正前の課額)

- 一、製造業
  - 從業者一人毎に年稅金八拾錢(金壹圓)
  - 一、小船
    - 肩幅四尺迄壹艘年稅金四拾錢(金四拾八錢)
    - 肩幅四尺を越ゆるものは壹尺迄を加ふる毎に年稅金貳拾錢(金貳拾四錢)を増課す
  - 一、荷積牛馬車

◎土原第二區納稅貯金

組合總會

土原第二區は從來納稅の成績良好ならず現區長原鹿藏氏就任以來之が矯弊に付苦心する處あり曩に昭和四年四月一日納稅貯金組合を設立して各組合員毎に一ヶ年間の納稅額を豫定し其の相當配分額を日掛又は月三回掛の二方法に依り蓄積し之を毎月の納稅金に充つることゝせる以來滿二ヶ年を経過せり其の間に一人の滯納者を生せず頗る良好の成績を見るに至れり仍て四月三日午後二時櫻花爛熳たる川島堤上に於て其の第一回總會を開催し原區長の會務報告、町長の挨拶等あり組合員一同歡を盡し夕刻散會せり

◎納稅成績

三月分の納稅は田租第三期及所得稅第四期の二種にして内田租は全部完納の成績を得たるも所得稅にして完納に至らざるもの左の二十六區なり  
川島第一區、川島第三區、橋本町區、唐樋町區、

四輪車 壹輛年稅金八圓六拾錢(金九圓)

農業專用 壹輛同 金六圓(金六圓貳拾錢)

二輪車 同 同 金五圓七拾錢(金六圓)

農業專用 同 同 金四圓(金四圓貳拾錢)

一、人力車

營業用 壹輛 年稅金貳圓(金貳圓四拾錢)

一、荷積車

農業專用壹輛年稅金貳圓參拾錢(金貳圓四拾四錢)

一、駄賃牛馬の課目課額を削る

一、立木竹伐採

伐採見積價格の千分の八(千分の拾)

◎家屋稅納期限變更

本年三月三十一日付を以て縣稅納期限中左の通改正本年度分より適用せらる

記

家屋稅	四月一日前期	其の年七月十五日より末日
現在賦課後期	其の年十一月十五日より末日	

江向第三區、平安古町第三區、瓦町區、東田町第二區、西田町區、上五間町區、吉田町區、古萩町區、濱崎町第四區、東濱崎町第二區、香川津東區、香川津西區、香川津南區、香川津北區、鶴江第一區、前小畑第一區、前小畑第二區、小畑浦第一區、小畑浦第二區、越ヶ濱第三區、椿町區、濁淵區

◎自轉車鑑札を無効と爲したる者

四月中盜難或は紛失の届出に依り新鑑札を交付し無効の處分を爲したる自轉車舊鑑札番號及住所氏名左の如し△印は乙三

舊鑑札番號	事由	住所	氏名
八七三六二	盜難	玉江第二區	野原 耕作
△前輪二二八〇	紛失	唐樋町區	高橋 正治
後輪二二二八			
八八六〇一	紛失	後小畑區	小野村健治
八六七七五	"	香川津南區	大石清三郎
八八五九七	"	江向第三區	小野 武夫
八八八八〇	"	樽屋町區	大庭竹之進

九八五〇四	平安古町第一區	橫山金穂
八八四八六	越ヶ濱第五區	中村 市藏
八八四二五	熊谷町區	山根 光雄
三八〇九六	般津區	藤井 商助
八七一三〇	吳服町區	淺野 金治
八七二二八	玉江浦第二區	櫻井 忠雄
八七〇三四	鶴江第一區	末永舛太郎
八七一二三	川島第二區	杉山 仁藏
△前二一三八	川島第二區	石丸 七郎
△後一四九七	吉田町區	古川 俊甫
△〃二二一三	北古萩町第一區	増野淺太郎
△〃二一四六	江向第二區	橫木 米藏
△〃一一三三	香川津南區	代表 合同運送店 末永光藏
△〃一一三一	倉江區	杉山 梅吉
△前一一〇八五	濱崎町第二區	山村 次郎
△後一一一七四	椿町區	中谷 福松
△前一二二四三	香川津南區	岡本 徳助
△後一二二二〇	西田町區	山田 七郎
△一四九五	熊谷町區	服部 友吉
△〃一五〇一		

△〃一五二八	椿町區	大津友太郎
△〃一一五九		同 人
△〃一四九二	平安古町第三區	河村一男
△〃一四八二	濱崎新町第二區	赤木新吉
△〃一二二一	後小畑區	小野村芳友
△〃一一五七	小畑浦第一區	淺野 孫一
△〃一一五五	濱崎町第四區	大島 誠一
△〃二一〇六	西田町區	岩本八十二
△〃二二二七		安田幸次郎
△〃一一四三	江向第二區	能美 恒一
△〃二〇八一	濱崎町第二區	萩醬油株式會社
△〃一一六九	濱崎町第三區	島本 慶一
△〃一五二三	土原第二區	伊藤 政吉
△前一一七七	香川津南區	三井 慎一
△後一一一九一		同 人
△九五七三一	香川津西區	藤井 貞雄
△〃一二二一	濱崎新町第二區	安永 明介
△〃一二二一	瓦町區	住永 明介

軍事

◎現役兵慰問

四月五日午前十一時阿武郡町村長一同を帶同して吳海軍下士卒集會所に到り吳海兵團及軍港内在泊の軍艦乗組員を慰問翌四月六日午前九時廣島第五師團司令部訪問後野砲兵第五聯隊に於て工兵第五大隊及輜重兵第五大隊在營の現役兵を慰問午後〇時電信第二聯隊を午後二時騎兵第五聯隊を訪問夫々現役兵の慰問を了したり萩町出身の現役兵員左の如し

- 吳海軍在勤者 六十七名
- 騎兵第五聯隊 七名
- 野砲兵第五聯隊 十一名
- 工兵第五大隊 五名
- 電信第二聯隊 六名
- 輜重兵第五大隊 十二名
- 歩兵第十一聯隊 一名
- 計 百〇九名

◎傷痍軍人總會

四月十九日午後一時より萩町公會堂に於て山口縣傷

痍軍人第三回總會を開催各郡市よりの來會者百餘名の外來賓參拾名會長吉富大尉の式辭來賓福田中將及林町長の祝辭會員の實戰談等あり式後小宴を催し盛會裡に午後四時解散夫より來會者一同は萩町仕向け自働車に依り萩史蹟を視察翌二十日歸郷せり

◎萩町招魂祭

四月三十日午前十時より堀内忠碑魂前に於て神式を以て舉行せり齊主人丸神社片山社掌以下十名の神職之に當り遺族百四十三名公傷兵十八名來賓として各官衙學校諸團體の長町會議員區長等百八十餘名在郷將校以下分會員四百餘名其の他青年團員等多數參列陽神職に依り招魂の式を行ひ獻饌齊主片山神職の祝詞祭主林町長の祭文祭主及齊主の玉串拜禮に次で寺院總代弘法寺住職重富法光遺族公傷兵總代前田正敏將官福田中將以下六名萩町在郷軍人分會員總代市川大佐現役兵總代野砲兵第五聯隊關谷上等兵來賓總代瀧口吉良學校生徒兒童總代河内萩中學校長男女青年團員總代藤村大佐の拜禮あり終式後引續き參列者一

同に對し簡粗なる饗宴を仕向け更に午後一時より餘興として在郷軍人及中等學校生徒の相撲競技を演じ同五時盛會裡に解散せり  
因に當日野砲兵第五聯隊萩町出身現役兵三名輕重兵第五大隊同上一名の參拜者ありたり

●幹部候補生任官

昭和二年徵集左記幹部候補生は三月三十一日附を以て頭書の通豫備役將校に任せらる  
濱崎町第二區 歩兵少尉 阿武 義輔  
北古萩町第一區 全 岡村 清作  
上五間町 全 齋藤 梅雄  
玉江第一區 全 來島 久一  
河添第一區 全 横山 寛一  
越ヶ濱第二區 工兵少尉 野村 博  
東田町第一區 全 吉中孝太郎

●在郷將校同相當官の轉役

左記の者は三月三十一日後備役満期に依り四月一日

越ヶ濱第一區 全 末武 藤七  
全第一區 全 深野 幸一  
鶴江第一區 全 岩崎 與市

通信

●四月中萩郵便局行事

四月四日 男子吏員觀櫻會  
花の志都岐公園に於て正午より開宴高亭の仕出し料理に舌鼓を打ち花を賞でつゝ一同充分に歡を盡し手土産の折詰を片手に午後六時散會せり  
五日 女子吏員觀櫻會  
當日は雨天の爲め正午より高亭に於て觀櫻の宴を催し午後五時より自働車を列ね志都岐公園に向ひ薄暮の園内の風情を稱揚し午後六時散會せり  
七日 傭人觀櫻會  
午後七時より川島醉月亭に於て傭人一同の觀櫻會を催し夜櫻の風情を賞しつゝ一同盛會を極め午後十時半散會せり

付退役となれり  
土原第二區 歩兵少佐 松浦 精  
江向第三區 全 吉井 貞一  
唐樋町區 歩兵中尉 津田 幸助  
大屋區 砲兵少佐 古谷四五郎  
熊谷町區 三等主計 末永 一郎

●教育召集

左記の者は五月二十一日より九十日間工兵第五大隊へ教育召集を令せらる  
越ヶ濱第五區 第一補充兵役工兵 末武 好祐

●勤務演習召集

左記の者は五月一日より二十一日間野砲兵第五聯隊へ勤務演習の爲召集せらる  
西田町區 豫砲伍 清水 郁介  
全 全砲上 岩本 一郎  
北古萩町第二區 全砲一 川村 實

十三日 男子吏員事務研究會  
午前九時半より吏員の研究會を開催前回に引續き諸般事務に亘り研究を遂げ正午散會せり

十九日 長門部三等局長會役員事務打合せ  
當局階上に於て遞信局石野保險課長臨席の上長門部三等局長會役員の事務打合會を開催せり  
二十一日 修養講話開催  
午前十時より河野萩中教諭の「忠正公と高杉晋作」と題する郷土の歴史に就ての興味ある講話を一同聽講せり

二十七日 修養講話開催  
午前十時より中所囑託講師の「同胞生活に於ける因縁思想」と題する興味ある講話を一同聽講せり

●萩郵便局昭和六年四月分事務取扱状況

種別	前年取扱數	本年取扱數	増減
書留價格表引受	三、四三	三、二六	△
記通常郵便配達	五、五八	五、三四	△
物			二四



小包郵便物	引受	二、四七七	二、八九二	△	四四
配達	三、八九九	三、八四〇	△	五九	
電報	發信	四、一七四	二、六九五	△	一、四九九
中繼	五、八二六	四、三〇一	△	一、五二五	
爲替振出	金額	二、六四五	二、二二七	△	四三
爲替振出	口數	一、四四四	一、四七七	△	三
爲替拂渡	金額	二、五五五、五〇三、〇八一、四〇〇	二、三二一、八九〇	△	一、一六八
爲替拂渡	口數	二、五七八	二、三七四	△	二四
貯金預入	金額	三、〇六七	二、七〇三	△	三六四
貯金預入	口數	八六六	一、〇三六	△	一七二
貯金拂戻	金額	三、七四五、二五三、七四九、〇九九	三、八、九七四	△	二
貯金拂戻	口數	一、六四四	一、六六	△	二
保險契約申込	金額	一、五五、〇〇〇	一、四〇、九〇〇	△	二四、一〇〇
保險契約申込	口數	一一、三二一	一一、九〇九	△	五九
保險料徴収	金額	七、〇三三、二〇〇	七、八四三、七五〇	△	八二〇、六三〇
年金契約申込	金額	一、七〇〇、二五〇	六、六、五〇〇	△	一、六三五、九〇〇
年金契約申込	口數	六	二	△	四
年金掛金徴口數	金額	一、七〇〇、二五〇	六、六、五〇〇	△	一、六三五、九〇〇
年金掛金徴口數	口數	八	一四	△	六

收 金額 一、二八、六〇〇 二、四二、〇七〇 三、三三〇

土木交通

◎川島道路落成式

川島區内藍塲川筋の道路改修は客年十一月竣功せしを以て四月三日午前十時より天王鼻に於て同區主催の落成式を舉行せり林町長町會議員町内官公署長其の他川島區民等多數の參席あり井上委員長の開會の挨拶に次ぎ林町長の祝詞あり式後開宴午後一時散會せり

◎官祭招魂社地の一部を道路區域に編入

萩町大字椿東字長添山官祭招魂社地五千百五十五坪の内八百五十一坪を町村道松本長添線道路改修の爲道路區域に編入方出願中の處四月二十日付を以て本縣知事より許可ありたり

◎町村道改修

曩に本町より出願に係る町村道松本長添線萩町大字椿東字新川地内道路改修の件四月二十二日付を以て本縣知事より認可ありたり

衛生

◎四月中傳染病患者の狀況

四月中	三月迄	内死亡者數	計
チフス	一	一	一
コレラ	四	一	一
腸チフス	五	三	三
計	一〇	五	一

◎四月中死亡者埋火葬別

四月中	三月迄	計
火葬	一七人	六一人
埋葬	二一	八八人
計	三八	一五六
火葬	一八一	六八八
埋葬	一八	八八人
計	一九九	七九〇

◎四月中死亡者病類別

病類別	四月中	三月迄	合	計
腸チフス	三人	一人	四人	
その他	一	一	二	
結核	一	二	三	
癌及悪性腫瘍	一	二	三	
脳膜	一	二	三	
脳出血及腦軟化	一	二	三	
心臓の器質的疾患	一	二	三	
急性氣管支炎	一	二	三	
慢性氣管支炎	一	二	三	
肺炎及氣管支炎	一	二	三	
其の他呼吸器病	一	二	三	
(肋膜炎)	一	二	三	
胃の疾患	一	二	三	
下痢及腸炎	一	二	三	
脱腸及腸管閉塞	一	二	三	
産褥	一	二	三	
萎縮腎	一	二	三	
先天性弱質及乳	一	二	三	
兒固有の疾患	一	二	三	

老	八	二五	三三
外	二	四	六
因	五	六	一一
死	五	六	一一
其の他の疾患	五七	一七八	二三五
計			

### ◎結核豫防デー

四月二十七日を期し全國一齊に結核豫防デーを實施する本町に於ても當日午前六時煙花二發を打揚げ左記結核豫防の要諦なる注意書を各戸に配布し且つ萩警察署に於ては萩醫會、萩藥劑師會と協力して二万枚の宣傳ビラを全町に撒布し又は活動常設館に於て結核に關する映畫を公開せる等之が注意を喚起する承ありたり

### ◇結核豫防の要諦

近時萩町には結核患者が著しく増加しました

### ◎乳兒に關する事項

- 一、乳兒は結核に罹り易いから人込みの所へは可成連れて行かぬようにすること
- 二、子守の健康に留意し受乳は規則正しく充分に

### ◎患者及患家に關する事項

- 一、痰を吐き散らさぬよう痰壺か便所かにせよ
- 二、痰の着いた紙やハンケチは焼き棄て咳やくさめをするときは紙かハンカチで口を掩ひ決して他人に向けてせぬこと
- 三、夜具蒲團衣類は度々日光に曝すこと
- 四、患者は全々別室とし使用品等は全部別物とせよ
- 五、初期に於て充分治療すれば皆全快する

### ◇消毒機の使用をすゝむ

萩町には町立堀内病院に專賣特許の消毒機が備付けてあるから結核其の他豫防消毒の場合には極めて安い料金で何時でも消毒して差上げますから之を御利用下さい國の興亡は結核の消長に比例す

結核と虚榮は亡國の基

結核を防ぐには保健が第一です

### ◇咯痰無料検査

希望者には無料で咯痰の検査を致しますから萩細菌検査所(東濱崎町萩娼妓病院内)へ持参下さい

與へること

### ◎小兒に關する事項

- 一、小兒は成るべく戸外にて遊ばせ虚弱な小兒には充分の給養を與へ規則正しく食事をさせること
- 二、口中を清潔にし虫歯を療治すること……虫歯は結核の培養地である

### ◎家屋に關する事項

- 一、家屋の内外は良く掃除を爲し室内には常に風を通し日光を採り入れること
- 二、便所流し場は殊のほか清潔にし夜具蒲團衣類は度々日光に曝し又は洗濯すること
- 三、痰を吐き散らさないやうに注意すること

### ◎豫防に關する事項

- 一、大酒、夜更かしは体力を衰へさせ發病の原因となる慎しむべきこと
- 二、献杯は必ず止めること
- 三、攝生を守り体力を充實し抵抗力を強くし結核菌にも打勝つて病氣に罹らぬようにすること
- 四、病氣に罹つたら早く醫師に診察すること

### ◎春の沙干狩は素晴らしい健康の泉

オゾンに富んだそよ風の快

貝類の榮養價と美味

▽……そよ／＼沙干狩の季節が近づきました、温かい小春日和オゾンに富んだ海風に頬をなぶらせながら紫外線の恵みを十分浴びての沙干狩り!! それこそは健康にこの上もない春の楽しみですが獲つて歸つた貝類にもまた素晴らしい榮養が含まれてゐます▽……貝類の榮養は蜆、淺利、蛤などを通じて大差ありませんそこで沙干狩にいらしておどりになるこれらの貝類が食用としてどんな榮養分を含んでゐるか今蛤についてお話しして見ませう

蛋白質一三、一八脂肪一、八八脂肪〇、八となつて此外に纖維、含水炭素があります

貝類の消化が悪いといふのは纖維が多いため同じ蛋白質でも貝類蛋白質は魚肉と違ひグリコゲン(肝臓に貯へられて直に血液を補ふ役をするもの)となる要素が多いために健康な人には貝類は非常に榮養

價の高いものとなります  
▽胃腸の悪い人には消化不良で下痢を起すことがよくありますから避けなければなりませんしかしこの不消化な繊維も健康な人にとつてはかへつて便通をつけ腹工合を整へますからかへつて好結果を來す譯です

### ◎疫痢はもう怖しく無い

九大箕田博士が病原に關し劃期的發見

九大醫學部小兒科教授箕田貢博士は十數年前長男を疫痢で失ひ爾來子供に命取り疫痢の研究に没頭してゐたが、最近同病の病原に就て劃期的發見をなしその治療上にも革命をもたらし重症患者と雖九十パーセント迄は全治し得る迄に至り、遊び盛りの子供にとつて一大福音となつてゐるが同博士は去る四月五六兩日金澤醫大に於て開催された日本小兒科學會の席上此の大福音を發表したが同博士は疾痢症状態患者多數に就て研究した結果腸内の腐敗や菌の活動による結果のみでなく、疫痢は神経系統の昂奮による血

管の急激な收縮による事を發見その治療法としては藥品注射により毛細血管を擴張せしむる事によつて容易に全治し得るに至つたのであるが同博士は尙ほこれを以て満足せず遠城寺助教授等の其力を得て動物實驗により同様の實驗的研究を行つたがこれ又同様の結果を得たのである從來醫學者の研究は動物實驗より人間研究に入つてゐたものが箕田博士は反對に人間による研究より動物實驗に入つたものであるその研究方法も從來の軌を破つたものであり今春の小兒科學會に於ける大收獲の一つであらうと期待されたものである右に就き箕田博士は語る

疫痢は今ではそんなに怖ろしい病氣ではなくなつた僕は神経の昂奮血管の急激な收縮によるものと確信するが此の場合血管を擴張すれば容易に恢復するのである赤痢に罹つた場合も神経の昂奮血管の收縮を伴ひ疫痢のやうな症状を起すことがあるが福岡地方が從來疫痢が多く風土病の如く云はれてゐたのは此の赤痢が多いからであらう子供にとつて夜更しやウンと昂奮させることは疫痢になる原因である夜遅くまで活動を見せたり長いこと汽

車でゆられたりして昂奮させるとよく疫痢となることがある

### ◎適宜な調理法で榮養を攝れ

調味料を多くすると自然の味を損する

日本料理の調理法は兎角調味料を多量に使用するのが例になつてゐるがこれは食品の自然の味を損する場が多いものであるしかし鯉節や煮干あるひは昆布椎茸を用ひることは風味の上にも榮養の上にも有利である魚類や獸類鳥類なども肉そのものよりも臟腑や頭などの調理法を適宜考ふべきである肝油が鱈の肝臓によつて製造されることを見てもその優良な食品であることがわかる野菜類でも莖や皮の部分に榮養素が多いものである日本人は西洋人や支那人に比較して一般に脂肪分の多いものを食べる必要がある脂肪分はカロリーに富んでをり特に動物性のそれは體內に蓄積されて衰弱を防ぐ總て食物は好みの風味の物を用ひるべきである夫は消化液の分泌を促す効があるからである食物を十分咀嚼して味ふべきは

唾液の働きを完からしめるので消化をよくするそして咀嚼中に違つた風味を味ふことが出来る消化作用は胃および腸で行はれるのであるがそれには唾液の助けをかりなければならぬ殊に御飯や野菜類果物などは胃では十分消化されないそこで唾液がそれを助けさらに十分な咀嚼が必要なのである(榮養研究所)

## 人事

### ◎萩町の人口動態

婚姻 離婚 出生 死亡 死産  
昭和六年四月中 四四 七一 一三 八二 六  
一月以降累計 二三四 二四五 三七 三四一 二二

### ◎四月中出生届出の者

(○印は本籍なき者)

區名	戸主の氏名	出生年月日
熊谷町	ハツ孫 山本 弘	昭和三年三月九日
越ヶ濱	末松姪 石田 笑子	昭和六年三月廿三日
同	光藏三男 末武吉五郎	同 廿五日
香川津	久兵衛甥 内田 徹	同 廿二日
平安古町	清麿三男 八木谷忠則	同 七日
瓦町	フサ子私生子 長瀬一子	同 十六日
津守町	精次郎姪 原 三重子	同 廿六日
沖原	芳松三女〇堀 千代子	同 三十日
中津江	喜兵衛三女 西郷香壽子	同 廿八日
越ヶ濱	彌吉孫 藤田八重子	同 廿四日
木間	太一孫 藤田 松子	同 四月一日
玉江浦	久助長女 森下 初子	同 三月三十日
上野	兼藏孫 神崎 正行	同 廿五日
笠屋	與助孫 松岡 清子	同 廿六日
平安古町	忠太孫 岡本 笑子	同 二十五日
後小畑	熊吉孫 岡 義子	同 廿六日
椿原	八十八姪 尾川 照治	同 廿五日
無田ヶ原	慶次孫〇石川 孝雄	同 廿七日
古萩町	戸主 岩崎	同 十七日

山田	三吉六男	原田 末春	同 廿六日
江向	十三孫	三浦滿喜子	同 二月廿八日
惠美須町	信清從弟	熊野喜久信	同 三月二十日
濁淵	音三郎長男	矢野 圭一	同 十七日
山田	若松孫	田村 勇治	同 廿四日
土原	勝之進同	河野惠美子	同 廿七日
鶴江	權左衛門孫	吉村 茂子	同 廿八日
西田町	正一三男	野村 正	同 二十日
玉江浦	松二郎孫	上領 松枝	同 三十日
雜式町	尙二三女	大谷 尙子	同 十六日
橋本町	次郎長男	溝部 昂	同 三十日
江向	信一七女	高橋富美子	同 廿八日
惠美須町	三信二女	林 信子	同 二十六日
堀内	一德庶子女	渡邊キクエ	同 三十日
香川津	隆助四男	林 光明	同 廿六日
大谷	米藏孫	吉岡 和雄	同 四月四日
御許町	秀吉孫	中山 壽枝	同 三月七日
椿町	壽三郎孫〇岡崎	良夫	同 三月廿七日
堀内	尙義長女	兼田サタエ	同 二年十二月廿七日
御許町	善右衛門二女	中村喜美江	同 六年四月一日

上野	長槌六女	山本ヨシエ	同 三月廿六日
濱崎新町	辰次郎二男	内田孝人	同 三月廿六日
古萩町	德藏三女	田坂 光子	同 卅一日
南片河町	重郎三女	三好 任	同 廿七日
越ヶ濱	三藏孫	石田壽弓子	同 廿九日
玉江浦	紋藏孫	網屋 正春	同 三十日
河添	一五女	川口 史子	同 二十日
土原	虎弼孫	林 令子	同 廿六日
椎原	文造二男〇長嶺	英典	同 卅一日
江向	健太甥	溝部 衛志	同 四年七月三日
同	同	澄男	同 五年十月一日
倉江	直一長女	波多野敏子	同 三月三十一日
後小畑	鶴吉孫	金子 清一	同 四月五日
大谷	鐵治長女	赤木 治惠	同 三月廿六日
北古萩町	與市甥	川村 長年	同 三年十二月十六日
南古萩町	紀一孫	安藤 繁	同 六年三月廿五日
濱崎町	彌三郎孫	林 進	同 四月八日
後小畑	榮藏長男	河崎 正直	同 一日
玉江浦	權吉孫	田中ノブ子	同 一日
倉江	政槌孫	三村 範雄	同 一日

越ヶ濱	勘二郎孫	井町フミノ	同 五日
土原	道長女	河野ヒロ子	同 十三日
松本市	正一甥〇太田	政夫	同 大正十四年十二月廿三日
川島	恭輔五女	河村 恭子	同 昭和六年四月三日
倉江	與一三男	伊藤 利治	同 三日
越ヶ濱	正庶子男	櫻井 一	同 四日
橋本町	正二男	中村 俊雄	同 二日
米屋町	八郎二女〇金子	泰子	同 六日
浦小畑	米藏六男	上田 一夫	同 七日
平安古町	良一二女	矢野ヨシ子	同 七日
河添	榮孫	安成 衣子	同 三月廿九日
上五間町	勇長女	濱田 直子	同 三十日
前小畑	留輔三男	白神 孝男	同 廿九日
同	好松孫	佐々木秀雄	同 四月三日
香川津	清一四女	植村 英子	同 五日
古魚店町	マツ孫	小島 和子	同 三月廿八日
川島	隆輔同	内藤 昭子	同 三十日
下五間町	朝雄二女	河村 信江	同 四月十日
土原	久雄庶子男	秋村 寛之	同 三月四日
青海	義槌孫	岸 京子	同 四月六日

浦小畑	末松同	田村	房枝	同	八日
玉江	新一三男	杉山	博男	同	同四年四月廿七日
椿町	由之助孫	宮内	サツキ	同	同六年三月卅一日
濱崎町	芳五郎二男	〇三戸	昭男	同	四月十三日
玉江	豊吉孫	來島	一正	同	六月
大谷	清行四女	伊藤	良子	同	十三日
江向	九一郎甥	曾田	富雄	同	同五年三月十六日
東濱崎町	音吉孫	吉藤	唯義	同	同六年四月十二日
川島	爲次同	〇加藤	正雄	同	二十七日
椿町	太郎吉四男	田中	靖二	同	十一日
鶴江	治右衛門孫	吉村	吉雄	同	八日
笠屋	權次郎同	〇岡村	仲	同	十二日
中ノ倉	土藏二女	大田	シヅエ	同	同
北古萩町	熊治郎孫	森島	富美子	同	十三日
春若町	正道甥	八道	英也	同	十六日
霧口	種吉三女	八道	美代子	同	十日
浦小畑	久次郎孫	青木	末子	同	三月四日
無田ヶ原	勝亮三女	深川	幸子	同	四月十五日
前小畑	亡三藏孫	小田	勇	同	三月十三日
山田	幹松姪	佐々木	のぶ	同	三月十九日
吳服町一丁目	信一長女	齋藤	文江	同	四月十四日
江向	彌作孫	河村	道男	同	三日
鶴江	與三郎同	兼本	悦子	同	十三日
越ヶ濱	定七長女	青野	イサ子	同	大正三年九月廿日
濱崎新町	桂一長男	中島	治義	同	昭和六年四月廿日
濱崎町	千代熊長男	大西	章次	同	同五年五月十一日
香川津	作太郎孫	山影	一人	同	同六年四月十七日
椎原	道資三女	兼重	經子	同	十八日
中ノ倉	幹太郎庶子男	廣瀬	進至	同	同
越ヶ濱	鶴松二男	末武	廣利	同	十七日
玉江	菊次郎孫	岩田	昭成	同	同
江向	金一郎四男	〇小原	善治	同	廿一日
土原	武一五男	岡崎	仁	同	十九日
吉田町	良一長女	國弘	和江	同	廿五日
後小畑	龍輔二女	伊藤	千英子	同	九日
南古萩町	馨三女	伊藤	輝子	同	同
御許町	榮助孫	中村	十四郎	同	七日
越ヶ濱	要藏孫	上村	恭子	同	同
東田町	介九郎同	〇辻野	健一	同	十五日
樽屋町	利作同	藤井	英也	同	廿三日

●四月中死亡届出の者

(○印は本籍なき者)

江向	素一三女	渡邊	照子	同	十九日
前小畑	龜吉孫	上領	勝正	同	廿二日
川島	好熊同	能美	弘	同	廿五日
區名	戸主の氏名	死亡年月日			
今古萩町	英一母	中澤	マス	昭	和六年三月五日
江向	淺一長男	中村	實	全	四月二日
古魚店町	茂一母	三宅	チヨ	全	四月
越ヶ濱	太作四女	井町	春子	全	五日
川屋敷	勘七長男	西山	正義	全	同
越ヶ濱	市五郎弟	島田	成長	全	三月廿三日
惠美須町	乙助二女	齋藤	キヨ子	全	四月五日
濱崎新町	戸主	福田	又四郎	全	六月
玉江	武雄妻	田中	キヨ	全	三月三十日
全	基介母	三戸	モト	全	卅一日
西田町	祐治庶子女	粟屋	幸子	全	四月一日
平安古町	戸主	河野	麻吉	全	三月卅一日
上野	幸吉長女	木村	ナツ	全	四月五日
土原	戸主	松村	惣吉	全	六日
濱崎新町	薰養母	引領	スエ	全	四日
平安古町	戸主	荒川	ヨシ	全	六日
小原	與宗四男	藤田	充	全	七日
江向	素行母	都野	ヨネ	全	六日
堀内	八五郎妻	櫻井	マス	全	七日
津守町	戸主	齋藤	壽太郎	昭	和五年三月廿日
玉江	從兄妻	西村	カツノ	昭	和六年三月五日
河添	義一母	水野	タキ	全	四月九日
濱崎新町	虎藏二男	井町	勇	全	十日
鹽屋町	亡謙藏孫	熊丸	滿壽子	全	三月卅一日
玉江浦	吉松二男	山田	義夫	全	四月十一日
古魚店町	戸主	船木屋	正雄	全	同
平安古町	和太郎姪	瀧	美惠子	全	三月廿九日
下五間町	戸主	〇中村	米吉	全	四月一日
濱崎町	彌三郎孫	林	進	全	十二日
河添	戸主	村尾	虎一	全	同
土原	道長女	河野	ヒロ子	全	十四日
熊谷町	圭一母	師井	チヨエ	全	同

米屋町	源次郎孫	藤井順三	全	十二日
越ヶ濱	五郎吉妻養母	兼本ヤス	全	十五日
熊谷町	戸主	大田良助	全	十日
東濱崎町	伊太郎姪	村木正子	全	十七日
樺町	戸主	藤田治三郎	全	
玉江浦	久助長女	森下初子	全	十六日
全	三吉妹	山下ヒヤク	全	五日
椿町	由之助孫	宮内サツキ	全	十三日
上五間町	三槌妻	村上コト	全	二十日
前小畑	虎一妹	金子イタ	全	十九日
熊谷町	房輔祖母	坂田キセ	全	
川島	二郎母	齋藤モト	全	
堀内	教亮二男	守永章一	全	
川島	信母	阿座上フサ	全	十八日
唐樋町	義顯長女	伊藤初江	全	十九日
越ヶ濱	末松長男	守永鶴一	全	二十日
東濱崎町	戸主	原田鶴藏	全	二十一日
北古萩町	信作四男	萬屋健治	全	十六日
熊谷町	庄藏孫	品川卓之	全	廿一日
東濱崎町	戸主	田原新吉	全	二十日

樺町	太郎吉四女	田中夏子	全	廿一日
後小畑	友次郎兄	野村多一郎	全	
越ヶ濱	戸主	井町末松	全	五日
吳服町	二丁目戸主	松浦宗兵衛	全	二十日
東濱崎町	戸主	野坂吉熊	全	
香川津	久一妻	岩崎カツ	全	十五日
北片河町	雅治伯母	竹谷サト	全	十九日
川島	敏夫三男	井山三郎	全	十六日
前小畑	歌吉妹	○谷村ミツ	全	廿三日
香川津	太郎吉四男	田中靖二	全	廿四日
中ノ倉	幹太郎庶子男	廣瀬進至	全	廿五日
惠美須町	壽雄妻	野村リム	全	廿六日
越ヶ濱	戸主	山下梅吉	全	廿四日
浦小畑	戸主	木村百合松	全	廿六日
江向	音松三女	大谷豐子	全	廿一日
全	亟一二男	大岡肇	全	廿四日
平安古町	基良母	杉本コマ	全	廿七日
江向	友次郎母	岩本スエ	全	廿八日
濱崎新町	萬槌四男	大草嘉數	全	廿六日
玉江	豐吉孫	來島一正	全	廿八日

細工町	常太郎二男	篠原正	全	廿九日
越ヶ濱	茂叔父	末武末松	全	昭和五年七月六日
全	音松二男	阿部幸一	全	
全	市五郎弟	藤田仁五郎	全	
全	友次郎長男	河村七藏	全	
全	定吉二男	楢本惣吉	全	
全	戸主	末武倉松	全	
全	倉松弟	末武清槌	全	
全	音松長男	末武要藏	全	
全	戸主	末竹熊吉	全	
全	戸主	阿部仁五郎	全	
全	戸主	坂本音吉	全	
全	孫市長男	末武正重	全	

◎四月中出入寄留者數統計

出寄留	男	女	計	一月以降累計
退去	四八人	五二人	一〇〇人	二八〇人
計	一六	一一	二八	八二
計	六四	六四	一二八	三六二

◎四月中出寄留及退去

入寄留	六五	六七	一三二	四五六
復歸	八	二	一〇	三七
計	七三	六九	一四二	四九三

届出の者

區名	戸主の氏名	年月日	印は退去者
江向	金之助三男○吉本七五三男	昭和六年四月三日	
南片河町	喜代槌孫 藤田清	三月廿七日	
堀内	戸主 村田歳一	全	廿五日
全	長男 一夫	全	
全	長女 力子	全	
全	二男 稔	全	
橋本町	三郎長男 秋丸繁美	全	三十日
堀内	孝一妻 榎原静子	全	二十日
全	長女 照子	全	
全	長男 隆郎	全	
香川津	作次郎長男 藤田幸輔	全	十八日

前小畑 清穂二男 佐伯 厚次 全 十六日  
 河添 吉藏長女 三戸 文子 全  
 濱崎新町 辰次郎甥 内田 孝 全 十二日  
 江向 五郎妻ノ母 中村 ハル 全 十一日  
 土原 省三長男 柴田 和雄 全 三十日  
 山田 若松孫 田村 勇治 全 廿四日  
 塩屋町 長之進長男 熊谷直唯 全 四月一日  
 全 婦 全 玉 全  
 全 孫 全 都多子 全  
 全 全 全 鳩生 全  
 全 全 全 奈川乃 全  
 全 全 全 庚生 全  
 平安古町 忠太孫 岡本 笑子 全 四日  
 大谷 金作五男 好川 利助 全 二月廿一日  
 平安古町 音一 二女 河田 洋子 全 三月卅一日  
 笠屋 戸主 齋藤政太郎 全 廿二日  
 全 妻 全 キナ 全  
 西田町 種助長男 小原 弘行 全 十九日  
 越ヶ濱 伊勢松長女 末武 ハル 全 十五日  
 江向 小二郎孫 小幡 伸彦 全 四月五日

香川津 安次郎三女 中野チヨ子 全 三月廿九日  
 青海 戸主 磯部マサコ 全 四月二日  
 全 長 女 全 明美子 全  
 全 長 男 全 敏一 全  
 全 二 男 全 平二 全  
 全 二 女 全 不二子 全  
 土原 虎弼孫 林 令子 全  
 御許町 千代松全 岡 陽一 全 三月三十日  
 全 全 全 富美子 全  
 川島 多門婦 坪井 敏子 全 廿五日  
 古魚店町 マツ長男 小島 保 全 四月八日  
 全 婦 全 春日 全  
 江向 哲己弟 松村 秀之 全 六日  
 全 姪 全 静香 全  
 全 姪 全 美代 全  
 平安古町 戸主 平川 フジ 全 九日  
 南古萩町 紀一婦 安藤 君子 全 七日  
 全 孫 全 繁 全  
 細工町 勝平婿養子 池田 彦三 全 一日  
 江向 喜三妻 仲 ナカ 全 十日

土原 直人長男 藤田 正直 全 六日  
 浦小畑 増藏弟 佐々木岩藏 全 七日  
 全 弟 妻 全 キノ 全  
 全 甥 全 福一 全  
 東田町 清治從弟 吉田 博 全 三月廿六日  
 川島 幹 母 中村 イソ 全 二十日  
 全 長 男 中村 胤敏 全  
 全 千代七二男 土井 五郎 全 廿七日  
 香川津 吉五郎姪 岡崎 國子 全 四月七日  
 土原 戸主 永富 二郎 全 四月廿四日  
 全 妻 全 トヨコ 全  
 全 長 二男 全 均 全 三月二十日  
 全 六之進婦 板屋 いせ 全  
 全 孫 全 正昭 全  
 川島 正七長女 藤村 多喜 全 四月八日  
 吳服町二丁目 戸主 吉田 孝吉 全 三月十六日  
 越ヶ濱 象吉二男 藤田 勝 全 四月五日  
 堀内 國助四男 神田 一郎 全 三月二十日  
 下五間町 重治弟 木村 秀吉 全 四月七日  
 全 弟 妻 全 清子 全

全 甥 全 秀幸 全  
 全 妹 全 滿壽子 全  
 濱崎町 多平長男 中本 重雄 全 九日  
 雜式町 尚二三女 大谷 尚子 全 三月廿八日  
 浦小畑 亡ナッ孫 古見 音熊 全 四月十七日  
 全 妻 全 ツル 全  
 全 長 男 全 倉一 全  
 全 長 女 全 玉代 全  
 全 三 男 全 重治 全  
 全 勝藏妻 淺海 瑞枝 全 九日  
 無田ヶ原 三 女 全 豐子 全  
 全 四 女 全 干代子 全  
 全 五 女 全 清子 全  
 船津 太郎從兄 久芳 廣明 全 二十日  
 全 從 弟 全 時郎 全  
 江向 新平庶子男 福原 平市 全 一日  
 全 婦 全 マツオ 全  
 全 孫 全 美枝子 全  
 橋本町 戸主 立野 九一 全 二十日









一、農村社會施設の普及に努め社會福祉の増進に資すること

### ◎宇田郷村大火慰問

四月六日夕宇田郷村大字惣郷部落に於て六十有餘戸を焼失せる大火の報に接したるに依り直ちに萩警察署長州新聞社長周日々新聞社と共に罹災者慰問の方法を講じ各區長各種團體の盡力に因り左記の通の金を宇田郷村に寄贈したり

茲に其の厚意を感謝す

▼義捐現金

一金壹千六百四拾四圓四錢

總額

▲義捐現品

一、米貳拾參俵八升一、古蒲團、古衣、新衣、反物木綿等、貳千百三十八點一、バケツ、鍋、釜、流し鉋刀、箸、柄杓等百八十五點一、下駄八十九足一、傘九本一、瀬戸物百二十個一、漬物、味噌、醬油、五樽一、杉皮百把一、釘八貫一、干魚三包一、足袋五足一、タオル二打一、石鹼十二打一、學生靴十個

一、木炭三俵其の他雜品數点  
▼以上金品義捐者員數

一、個人  
一、團體

貳千八百七拾九人

六十四團體

### ◎宇田郷村火災に就き同

村長よりの禮狀

拜啓前畧御免被下度候扱今回の火災に際しては早速多大の御聲援を辱ふし御蔭を以て各地より多大の御救恤に預り罹災者一同深く感涙に咽ひ居候財界不況の今日一方ならざる御迷惑相掛け候事何とも恐縮に堪へず候各位の御芳志に副ふべく復興の方法に付苦心致居候早速拜趨御厚禮可申上管に候へ共未得其意乍失禮不取敢書中御摺挨拶申上度如斯御座候 敬具

昭和六年四月十九日

宇田郷村長 小川 十郎

萩町役場殿  
萩警察署殿  
長州新聞社殿  
長周日新聞社殿

### ◎婦人の服裝改善に就て

四月廿七日付本縣學務部長より萩町長宛左の通達ありたり本件は現在及將來に處し婦人の實生活上必須の事項に屬するを以て斯種團體の共勵に依り速に實施を期せられたきものなり

我が國現下の經濟事情に照し日常生活を改善して家庭經濟の刷新を圖るは誠に喫緊の要事にして之が對策固まり種々可有之も本縣に於ては曩に生活改善實施事項を指示して其の實現を促し又最近婦人改善作業服の標準を制定して之が普及徹底に努力致居候處此の際更に進んで婦人の服裝改善の一助として目下縣下全般に普及し居る室内作業服(文化コート又は事務服とも稱す)を一般社交方面にまで進展せしめ國體的諸會合には勿論、訪問、應接、接待其の他一般外出等の場合に於ても之を使用することゝし以て冗費を省き虚榮、虚飾を誡め婦人の生活振りを一層緊張致させ度候に就ては貴市町村内婦人團體、報徳會女子青年團等を督勵し其の實行に關しては夫々申合せを爲さしむる等適

當の方法を講して之か實行を期すべく特に御配意相煩はし度此段及通牒候也

### ◎失

火

◎四月十九日午後二時半頃椿東區田床山林と隣接地川上村との境界に當る原野より發火したるも附近の住民消火の爲努力し同五時過鎮火した原因は入山者の煙草の不始末に因るものゝ如し

◎四月二十四日午前十一時頃江向第四區田村啓介宅より出火あり其の附近は明倫小學校萩商業學校及萩區裁判所等の建築物ありて一時は非常なる混雜を呈したりしが警報に依り公設及私設消防組萩商業學校明倫小學校教職員生徒兒童附近の住民出動し幸に大事に至らずして鎮火したり原因は木製火鉢の不始末より起れるものゝ如し  
本年一月以來屢々火災あり一般に火氣の取扱に付注意せられんことを切望す

### ● 桃山報徳會三十周年 記念大會

同會より林地方幹事宛左の通信ありたり  
 謹啓益々御清穆之段奉慶賀候陳者多年御盡力を蒙  
 り居候本會も茲に創立後滿三十年の星霜を閱し日  
 々月に各地に普及發展し着々其の實蹟を擧ぐるに  
 至りたるは偏に地方幹事各位の多大なる御援助に  
 依ること、感謝罷在候扱今回當桃山及鹿兒島に於  
 て之れが記念大會を開催致候處何れも豫期以上の  
 大盛會にて今後の發展上に勢からざる刺激とも相  
 成り誠に仕合之至に御座候本會としては國家永遠  
 の爲益々斯道に精進努力せざるべからざることを  
 痛感致候次第に候間尙此上とも御援助被成下度偏  
 に希上候先は記念大會終了に當り御報告旁御挨拶  
 迄如斯御座候  
 昭和六年四月十六日  
 報徳會總務所 花田仲之助  
 角谷源之助  
 外幹事一同 敬具

### ● 公人及私人

竹村浦和高等學校教授は史蹟見學の爲四月二日來萩  
 □ 藤田本縣農林技手は夏蜜柑集團地指導方法調査の爲  
 四月三日來萩  
 □ 古川、岩橋、長野室積女子師範學校教諭は史蹟見學  
 の爲四月五日來萩  
 □ 佐藤帝國人絹株式會社社長は史蹟見學の爲四月十八日  
 來萩  
 □ 廣島文理科大學増本文吉、増本政次郎教授及松田深  
 川高等女學校教諭は萩町各工場視察並史蹟見學の爲  
 四月二十八日來萩  
 □ 堅田愛次郎氏は毛利別邸詰に就職に付四月二十七日  
 町衙に林町長を訪問

### 雜事

#### ● 心の鏡

萩町書記 神田隆明記

三月二十六日木間小學校卒業式の際元町會議員山根  
 八五郎氏が卒業生の爲一場の訓話を試みられた其の  
 要旨は人として服裝を整へる爲には姿鏡に依るが心  
 を照す爲にも又鏡が必要であるその鏡を御示ししよ  
 うとて氏が幼年時代同所の醫家原田家の塾生として  
 習ひ修められたる詠俗要言なる一文を紹介されたの  
 である氏は之を心の鏡とし家憲として修養を積  
 まれたのであります是は獨り氏の心の鏡にのみ止め  
 す周く知らしめて身を修むるの一助ともなれば氏の  
 本懐でもあると考へその了解を得て左に全文を掲ぐ  
 る事とせり

#### 詠俗要言

吾が支配する處の民百姓たるものは父は義理を専ら  
 として能く其の家内を正だし母は慈悲の心深くして  
 能く其の下を養ひ兄は友愛して能く其弟をあはれみ

弟は恭敬にして能く其の兄を尊び子孝にして能く其  
 の父母につかふまつり極て親の心を樂ましめ夫婦は  
 互に恩義をわすれず俱に世渡りを營むべし去るべき  
 道もなくて妻を出し守るべき節を失ふて夫の家を出  
 づるみな恩義を忘れたるなるべし總べての男女の愛  
 は夫婦の別明かにして聊みだりなること有るべから  
 ず年若きものは暇あるときは物知る人に近づき道理  
 をわきまへ禮儀を考へて愚痴貧欲の恥かしきを知る  
 べし又筆算の類は世に用立ち諸藝は學ぶにしくはあ  
 るべからず村里の内禮儀を以て相交はり年頭節句の  
 禮儀寒暑時候の尋ね互に實情を以て往來すべし凡そ  
 私の集會は齡を尊ひて老人を上座にす、め辭儀作法  
 を丁寧すべし或は不仕合せにて家貧して生理に通  
 りたるか又は不圖災難に出逢ひて苦みなやむものあ  
 りれば親類打寄つてすくい恤むべし又吉凶の事有ると  
 きは組合講中の人々寄り集りて其の禮を助け調ふべ  
 し農業は民の命なれば朝は早く出て暮は遅く歸り晝  
 は茅夜は鞠しはらくも怠るべからずおこたれば自ら  
 暇を招く聊も人の物を盗みとるべからず博奕賭の勝  
 負假初にも翫ふことなかれ人と争ひ訟ふるは誠にや

むことを得ざればなり是を好みて人を誘ひ上下を惱まするの類は輕からぬ惡事なれば堅く其の黨に不可入をこそ惡しき人は善き人を敬ふべし己れの惡をもつて人の善を凌ぐべからず富みたるものは貧しきを憐むべし己れの富を以て人の貧しきを咎ることなかれ路を行くにも年少きもの品卑きものは年高きもの品尊きものに譲るべし荷輕きものは重きにさげ事濟みて歸るものは事有りて出る者によく勤し凡そ田地の境は相譲りて侵し奪ふことあるべからず山林家屋敷類にても各其の界の有るへければ争ひ論することなかるべし凡そ若きもの老ひたる人の爲に重き物を負ひ運ひ常に其の勞にかわりて勤め動き最早年たけ既に白髮の生ひたる人には荷物の業をさせしめず誠に如此行はれるば禮儀の風俗にして美しき習はせなるべしとや

右は唐古靈の陳先生名は襄といふ賢人仙居といへる地の奉行職たりしとき支配の民を教へられたる文なり此の教へはかしこくも天地の道理よりいでて聖人の立て給へる御掟なれば人として遁るまじき職分なり各謹み守りてとく事あるべからず人々之に遵ひな

ば天地の御心に叶ひ神もひそかに恵み給ふべければ萬の災ひもなく其の里富み榮へて人々の命ちもながく各其の所を得て樂まざるもの有るべからず別て又此の教に基きて人倫の道を亂だり公事へ訴訟を好み博奕盜賊の業を習ひ萬よからぬ方に迷ひ行けは面は人なれ共心は鳥獸に成り下りて彼の天職と侮り棄つればたとへ上の御咎めを免さるること有りども必ず天地の御怒りありて神もひそかに罰し給ふべければ貧究飢餓の患ひも招き來すべし

されは吉凶榮辱まことに雲泥萬里の差なれば能々思ひわきまふべことにこそ

●祖先崇拜に就て

本願寺特選布教使 守 重 哲 雄

祖先崇拜は古日本人の特色にして又現代青年の道德的行爲であらねばならぬ

然るに墓參をするとか年忌佛事等を修するとか云ふことだけを祖先崇拜と思つて居る者が多いが予は決してそれだけでは眞意義に契はぬと想ふ

●賀川豊彦氏萩の史

蹟を訪ねて

去る三月十七日賀川豊彦氏神の國運動講演會の爲來萩したる際史蹟を訪ねたる因みに左の詠吟ありたり

松陰神社を訪ねて

聖哲の、跡を慕ひて、巡禮の

旅路になやむ、春の夕やみ

白ふみつ、教へつ弟子を、導きし

先師の姿、今も戀しき

指月城にて

指月城、雨に咽ぶよ、春の夕

旅に疲れし、胸をいたため

指月城天主閣にて

雲を下に、見くだす高根に、のぼれども

かすめる眼には、みる景色なし

憂鬱の、群がる雲の日本を

吹き拂はまし、東風よ強かれ

●古くつ下が絹織物に化ける

自己の身心を尊重し自己の子孫を愛育することが積極的祖先崇拜だと考察する、何となれば自己及び自己の子孫は祖先の延長である、故に但だ過去に憧憬するだけでなく寧ろ現在と將來に向つて祖先よりより己上の向上發展を計りつゝ之を體現するのが本當の祖先崇拜である

蜀山人の嬢が展墓の感詠に

阿伽桶の水にうつれる我が影は

と云ふのがある、即ち自己の内に亡母の動きを見出したのである長くも神勅には

瑞穂の國は我が子孫の王たるべき國なり

この王國之れ實に子々孫々との生々發展する將來を見よとの御思召であるではないか

之を要するに祖先崇拜は但だ過去にのみ憧憬せず、現在と將來、即ち自己及び子孫の内に祖先の動きつゝあるを反省自覺し之を擴大して暢展することが國民の責務であらねばならぬ、特に男女青年諸子に告ぐ

ヤンキーガールの履き捨て  
年に五萬噸も輸入

アメリカのダンサーや貴婦人が履古した絹の靴下の  
行衛について最近面白い事實が発見された贅澤な米  
國婦人は踵が破れると直ぐ高價な靴下を惜氣もなく  
捨て新しいものを購入するのが普通であるが其破れ  
靴下の廢物が却々夥しい量に達する事に眼をつけた  
のが神戸の某輸入商である即ち茲數年間米國から古  
靴下を襪樓屑として輸入し之を機業地の織物工場へ  
賣却し織物工場では之をほごいて再び絹織物に織替  
へるといふ説であるが之を聞いた米國商務官が蠶糸  
中央會に照會したので中央會が調査した結果約五萬  
噸の古靴下が輸入されて居る事が判明した

### 名古屋の乾海苔が米國 映畫女優の瘦せ藥

お蔭で輸出量が増す／＼増加

二月中だけで七千斤

名古屋港から米國に輸出される乾海苔の量は近來ま

す／＼増加の傾向があり二月中は約七千斤におよん  
である、海苔の用途については主として米國婦人が  
やせ藥の代用にするのだとの噂があつたが米國ロサ  
ンゼルスに廿有餘年間住居し今回ロサンゼルス野球  
團を伴つて歸來した利行氏は米國婦人間の海苔の愛  
用熱に就て語る

海苔の愛用家は主としてハリウッドのキネマ女優  
の間に多い様だ御承知のやうに婦人殊にキネマ女  
優などはその姿態をどうすれば美しく保つことが  
出来るかどうすれば瘡形のすなりとした容姿を長  
く保つことが出来るかに苦心する従つてガースコ  
ントロール(脂肪を調節してやせる方法)には随分  
と骨を折つてゐる彼等にオートマチック・レヂユ  
ーサーを使用したりハリウッドのエイチ・イン・テ  
ー・ダイエットの指示に従つて節食をやつたりし  
てゐる油氣をぬくにはシトロンオレンジ・ヂュー  
スがよいと聞けば彼等はすぐこれを愛用する傾向  
がある數年前にはアガと稱する日本の昆布の様な  
海苔がやせるに都合がよいとあつてスクリンのス  
ターエキストラ・ガールに至るまでスープに入れ

たり或はチユーインガムのやうにしやぶつたりし  
たものだ／＼へたまたま海苔が脂肪をぬくには有  
効だ／＼あつて海苔の愛用家が多くなつた譯である  
果して海苔がガース・コントロールに役立つかど  
うかは知らぬが溺れるものはわらをもつかむの例  
で彼等がやせたい美しくすなりとなりたい一念か  
ら海苔を愛用してゐる次第だらうと思ふ

### 萩町日誌

(本月報登載外のもの)

- 四月一日 町衙に於て昨秋青島を根據地とせる本町  
機船底曳網漁業遭難者に對し青島有志者より送致  
したる慰藉並弔慰料金の傳達式を舉行
- 四日 林町長家事要務の爲午後歸郷
- 六日 大田町に於ける縣下市町稅務主任集會に列席  
の爲大田書記出張
- 七日 岩國町に於ける本縣町村長大會に列席の爲林  
町長出張
- 宇田郷村大火に付慰問の電報を發す

- 十日 林町長歸郷
- 十一日 町衙に於て山口縣傷痍軍人大會役員會開催
- 十三日 白水小學校に於ける敬老會に付林町長臨席
- 十五日 縣社志都岐山神社春祭執行
- 十六日 省營自動車に關し林町長は關係町村長と共  
に出山
- 町衙に於て帝國在郷軍人後援會萩婦人團評議員會  
開催
- 十七日 高大亭に於て指定運送組合第五回定期總會  
開催に付林町長臨席
- 十八日 嚴島神社例祭執行
- 十九日 町公會堂に於て山口縣傷痍軍人大會開催
- 二十五日 金谷神社例祭執行

### ● 昨年の今月今日

- 四月一日 縣社春日神社々務所増築奉告祭執行
- 二日 東光寺に於て元治元年殉難烈士の例祭執行
- 六日 町公會堂に於て山口縣聯合婦人總會開催
- 十日 町公會堂に於て山口縣鍼灸聯合總會開催



## 稟告

萩月報の使命とする所は町民諸子をしてより多くが自己の町勢を理解し率て以て愛町の觀念を旺盛ならしめむとするに在り換言すれば本月報をして町民諸子の自治制度上に於ける常識として唯一無二の絶好讀物たらしめ相倚りて町將來の福祉を増進し所謂町格を向上せむことを冀ふものなり。

幸にして發行以來年と共に購讀者數を増加し編輯上其の責任の重大なるを感せらるゝにより今後は一層登載事項の蒐集選擇に力を注ぎ以て讀者各位の期待に副はむことを欲す之を諒とせられむことを。

萩月報編輯者

### 發行要項

- 一、發行 毎月一回十五日發行  
 一、購讀料 一ヶ月 金 拾八 錢(郵稅共)  
 六ヶ月分 金 壹 圓(同上)  
 一ヶ年分 金 壹圓八拾錢(同上)

昭和六年五月十三日印刷  
 昭和六年五月十五日發行

編輯兼發行者 萩町長

林 勇 輔

印刷者 荒瀬 徳 治  
山口縣阿武郡萩町大字西田町五十五番地

印刷所 信清舎印刷所  
山口縣阿武郡萩町大字西田町五十五番地

發行所 山口縣萩町役場  
〒750 山口縣萩町二七三六番

取次所 藤川書店  
山口縣阿武郡萩町大字西田町五十一番地

萩月報

昭和六年五月十三日印刷納本  
 昭和六年五月十五日發行

昭和五年五月六日  
 第三種郵便物認可

毎月一回十五日發行

第三十八號